

アルカリブロック **KeepPer**

作業マニュアル

KeepPer技研株式会社

① アルミモール白さび防止 アルカリブロックキーパー

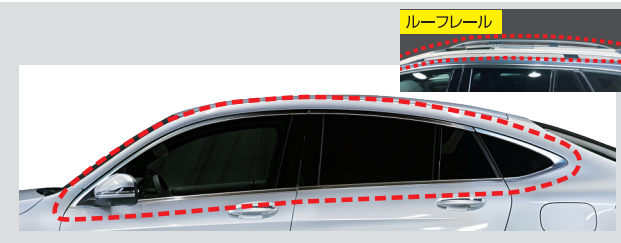
アルカリブロックキーパーで使用するツール

- アルカリブロックキーパー (主剤・硬化剤)
- 筆一式
- 注入器
- マスキングテープ
- 爆ツヤorアクアポリッシュ



施工箇所

- ヨーロッパ車の
- ウィンドフレームモール
- ルーフレール



⚠ 注意: 水や砂ホコリがかからない屋内で作業してください。 ※白サビがある場合は、モールクリーンシート作業 (別紙) 屋内の温度が「7℃以上」の環境で作業してください。

「ヨーロッパ車」で、アルカリブロックKeePerを施工しても**効果のない車** (アルミ製のパーツでない車) もあります。

メーカー	車種
シトロエン	【ウィンドフレーム】C3、C4、C5、ベルランゴ
ルノー	【ウィンドフレーム】トゥインゴ、ルーテシア、キャプチャー、カンゲー、メガーヌ、アルカナ
プジョー	【ウィンドフレーム】208、2008、308、3008、508、5008、リフター、RCZ
DS オートモービル	【ウィンドフレーム】DS3、DS7
ミニ	ミニクーパー、ミニクラブマン、ミニクロスオーバー
フィアット	500、パンダ
ランドローバー	ディフェンダー、レンジローバー、ディスカバリー

※年式によっては、アルミ製の場合があります。

「日本車」で、アルカリブロックKeePerを施工して**効果のある車** (アルミ製のパーツがある車)

メーカー	車種
レクサス	【ルーフレール】RX
マツダ	【ルーフレール】CX-5、CX-8

※アメリカ車のテスラ モデルS、3、X、Yのウィンドフレームも効果があります。

② 爆ツヤもしくはアクアポリッシュで洗浄する



参考

- スポンジやマイクロファイバークロスに付けて隙間なく洗浄します。
- 未使用の新車は、「新車用クリーナー」で洗浄できます。「新車用クリーナー」は水滴を拭き取ってから行ってください。



③ 水でよくすすぎ、水滴を拭き取る



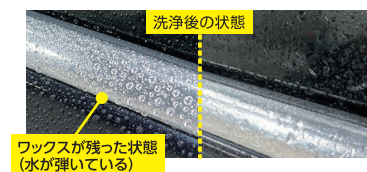
参考

- 「新車クリーナー」後は水ですすぐ必要はありません。



注意

- 細部の水分をエアガンでよく飛ばしておくこと。
- ワックスやコーティング剤が残っていないかよく確認すること。



STEP.1 前処理

① アルミモールの泥やホコリを洗い流す

STEP.2 マスキング

① アルミモールの周囲に、マスキングテープを貼る



参考

- マスキングテープは、できるだけ隙間が空かないように貼ってください



② アルミモール白さび防止 アルカリブロックキーパー

STEP.3 筆にコーティング剤をセット

- ① アルカリブロックキーパーの**硬化剤**を、**主剤に全て入れる**

⚠ 注意

- 混ぜた後、すぐに硬化反応が始まるので6時間以内が使用可能時間です。



- ② 主剤のフタを閉めて、5回軽く振ってよく混ぜる。



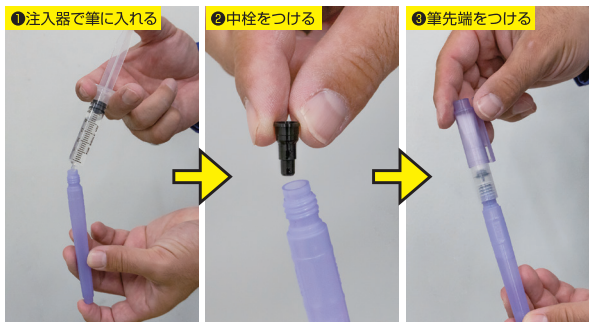
- ③ コーティング剤を注入器で吸い上げる



- ④ 注入器でコーティング剤を筆に入れたら
筆の中栓を付け、最後に筆先端を付ける

⚠ 注意

- 筆の先端をつける時は中栓をつけ忘れないようにしてください

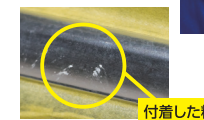


STEP.4 ガラスコーティング

- ① アルミモール表面を、アルコール綿で拭き取る

⚠ 注意

- マスキングテープの「糊」が付着している場合があるので、残さず拭き取ってください
- アルコールが乾いていない場合は、タオル等で拭いてください。



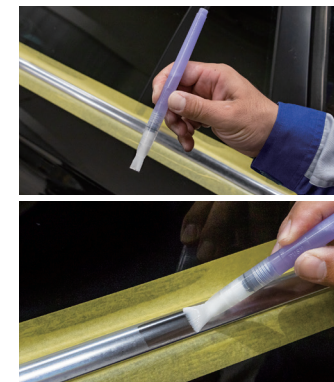
- ② 筆でアルミモール1m程度の範囲(約1本)に塗り広げる。

👉 参考

- 筆を軽くつまんで量を調整しながらまんべんなく塗ります。
- 量が多く出過ぎたら、不織布などで吸い取ってください。

⚠ 注意

- 隙間にコーティング剤が入り込まないように塗布してください。



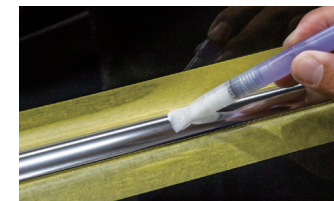
- ③ 再度、同じ箇所にアルミモールに塗り広げる(2度塗り)

👉 参考

- アルミモール1m程度を「一筆書き」のように1度で塗り広げるとよりキレイに仕上がります。

⚠ 注意

- 塗り広げた後は、拭き取りません。



③ アルミモール白さび防止 アルカリブロックキーパー

④ アルミモール全体に繰り返す。



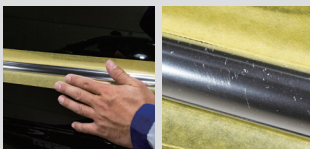
参考

- 作業中に塗り広げにくくなった時、筆先を交換してください。
- ボディや窓など付近のパーツに付着した場合は、水で固く絞ったマイクロファイバークロスで拭き取ってください。



⚠ 「塗布後に手で触れてしまった場合」・「ゴミが付いた場合」

「塗布後に手で触れてしまった場合」・「ゴミが付いた場合」は、そのパーツ(1本)のコーティング剤をキレイなマイクロファイバークロスで全て拭き取り、STEP.4から再施工してください。



⑤ マスキングテープを剥がす



注意

- マスキングテープを剥がすときに、コーティングしたアルミモールに触れないように注意。



⑥ ボディや窓など付近のパーツに、コーティング剤が付着していないか確認。



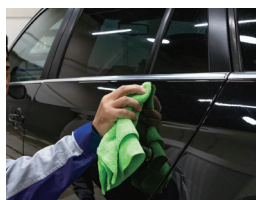
参考

- ボディや窓など付近のパーツに付着した場合は、水で固く絞ったマイクロファイバークロスで拭き取ってください。



注意

- もし拭き取れない場合は、内窓クリーナー(アルコール)をよく含んだマイクロファイバークロスで拭き取ってください。

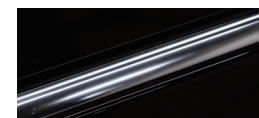


⑦ 6時間の自然硬化



参考

- コーティング塗布後6時間は、水や雨に濡れない屋内で保管してください。(その間、手で触れないようにしてください。)



注意

- 施工後1週間は洗車を行わないでください。

⚠ 注意：硬化中に水分に触れるとコーティング被膜が白くなる場合があります。

- 水滴が垂れないように、できるだけ車を移動しないでください。
- 冬季などは、結露のしない環境で保管してください。
- 「コーティング被膜が白くなってしまった場合」は、そのパーツ(1本)のコーティング剤をキレイなマイクロファイバークロスで全て拭き取り、STEP.4から再施工してください。

